

幼いころ、鶴岡の旧市内に住んでいても、中心商店街に行くことを「まちに行く」と言っていた。私にとって「まち」は非日常の楽しさをイメージするものだった記憶がある。親に連れられてきた当時の店の賑わいや往来の人々の多かったことを今でも思い出す。

「まち」は生き物であり、日々変化している。近年は、そのスピードがどんどん速くなり、すでに郊外店舗でも大型店同士の競争もあって淘汰が始まりつつあるなか、地方都市の中心部では人口減少が進み、取り残されたように中心市街地に商店街が存在している。当然、我が国の都市計画行政にも課題はあるが、肥大化した市街地による財政的リスクに気づきはじめて一部の市町村は、すでに郊外開発を止め、中心市街地に目を向けて積極的に動き出している。「中心市街地活性化」という言葉もここ10数年以上も使われてきた言葉であり、決して目新しくはない。しかし、今何もしないで放置すれば、楽しかった「まち」は将来的に地方都市から存在しなくなるかもしれない。

株式会社まちづくり鶴岡は、2007年7月10日に鶴岡市内の32事業所（商工会議所を含む）の出資により設立された、完全民間のまちづくり会社である。当社は、鶴岡の「中心市街地活性化」のための事業を行うことが大きな目的である。

これまで、鶴岡市の中心市街地活性化事業は、鶴岡市と鶴岡商工会議所により取り組まれてきたが、主に鶴岡市は行政の立場からの事業であり、商工会議所はイベントや空き店舗対策などのソフト中心で事業を進めてきた経緯がある。

しかし、これまでのような商店街振興策としてのソフト事業だけでは、抜本的な効果を見いだせずにいたことから、ハード整備事業も含めた「総合的なまちづくり」が必要となったことと、まちづくりにおける民間での施設整備を伴う事業は、商工会議所では困難であったことから、当社がその事業主体として受け皿となり、商工会議所とも連携しながら、総合的なまちづくりの事業が展開できる主体として中心市街地活性化に寄与することが求められている。

また、まちづくりに関わる事業は、その性格上、公益的な役割を担う半面、株式会社として設立され

バリューサイト VALUE SIGHT

民間主導によるまち もっと楽しく、暮らし 活力ある中心市街地

まちづくりは行政が担うものという既成概念から脱し、民間企業でまちづくりを行おうと、昨年設立された「株式会社まちづくり鶴岡」。これまでにない新しい発想と、民間ならではの柔軟な事業展開で、鶴岡のまちづくりがどのように進んでいくのか、今後の取り組みに期待したい。



映画館や貸スタジオに整備予定の松文産業工場跡地

た当社は、民間の自由な発想から、これまで商工会議所では取り組みにくかった、あらゆる事業へ柔軟に対応することも望まれている。

冒頭でも述べたが、昔の商店街は確かに賑わいのある「まち」であった。だからと言ってこれからの商店街が昔と全く同じようになることが必要とは決して考えない。今に合った「まちの在りよう」があって良い。

そのためには中心市街地がもっと楽しく、暮らしやすい場所であること。訪れる人が増えて、その人たちが少しでも長く「まち」の中にいるようになってくれることで、いろいろな新しい動きが起き、

新しい人の交流が生まれる「まち」の姿を目指したいと考えている。

当面の事業は、大きく4事業であり、特に「子育て応援機能整備計画」は、平成20年4月に施設の開園をした事業のため、当社の事業が少しずつ市民へ発信されているところである。また、中心市街地では比較的規模の大きく、地域住民と市外からの来訪者の両面をターゲットとして展開する集客機能として「松文産業工場跡地利用計画」を検討している。当社が取り組む当初計画の中では、基幹的位置づけにある事業と言って良い。以下に、当面取り組んで

ように映画館を整備し、平成21年開業の予定。

「エビスヤ薬局跡地活用計画」は、商店街内の歴史的建築物(空き店舗)を活用した、観光集客施設(地域工芸・クラフトの体験工房、展示、販売、情報発信等)を整備する。市街地の回遊性を高めるために周辺との連携も考慮しつつ、建物自体の魅力を材料として観光客が立ち寄る拠点づくりを行う。

そして「まちなか賑わい活力事業」は、市民参加型の活気ある祭り・イベントの支援を中心に、賑わいの創出に関わるソフト事業の継続的展開と観光情報提供(インフォメーション)機能を整備する。

まちづくり鶴岡の事業は、将来にわたる継続的な事業として、中心市街地の活性化に関連するあらゆるものが事業につながるものと考えられる。しかし、原則的に「人を集める仕掛け」や「人を集める拠点づくり」によるまちの活性化が目標であり、一つの企業や個店ではできない仕組みづくりを先導する役割である。そして、常に「新たな発想」と「新たな発見」と「新たな発信」ができる会社であることが大切であると考えている。

鶴岡のまちづくりは、今動き出したと言って過言ではない。これまでにあった「生かせる資源」を上手く活用して、新しい機能を加えながら賑わいを生み出すことで「まち」に貢献できれば、商店街としてその効果を幾分か享受することができるものと考ええる。

新しいものをすべてゼロからつくれるほど地方都市の経済的・社会的現状は楽観的ではないし、まちづくりにとって劇的な改善を見る処方箋が用意できるとも考えてはいない。ただ、将来的に中心市街地が活性化して、鶴岡が「他の都市から羨まれる存在」となること。そして、全国的に知られるようになり、日本人で鶴岡を知らない人がいない「まち」となることが究極だと思っている。

づくり
やすく、
へ始動

株式会社
まちづくり鶴岡
部長
菅 隆

いく4事業についてご紹介したい。

まず今年4月に開園した「子育て応援機能整備計画」では、商店街の空き店舗を利用した企業加盟方式の共同託児施設を整備する。地元企業に働く従業員が子育てしやすい環境を提供するとともに、企業が共同加盟することで単独で企業内託児を行うよりも負担が軽減できる。

「松文産業工場跡地利用計画」は、工場跡地を利用した集客施設(映画館、貸しスタジオ、飲食店等)と共同駐車場を整備する。鶴岡には文化的活動をする大小さまざまな団体があり、特に音に気を使う音楽をはじめとする芸術系の団体には、公共の施設だけでは不足する発表・練習の場として活用してもらおう。また、近年の藤沢周平ブームによる映画における庄内の評価も高まり、市内で映画上映が楽しめる

■ 菅 隆 (すげ・たかし)

株式会社まちづくり鶴岡 部長。

1967年鶴岡市生まれ。コンサルタント会社時代に各地の中心市街地活性化に関与。2006年12月より庄内銀行ふるさと振興室。2007年10月より現職。

2001年度より、中小企業基盤整備機構登録・中心市街地商業活性化アドバイザー。

〒997-0035 鶴岡市馬場町11-63

鶴岡市商工会館2階

TEL 0235-35-1221・FAX 0235-35-1222